

# 船橋市農委だより

FUNABASHISHI NOUIDAYORI

令和7年  
(2025年)

1/1

第109号  
年2回発行

発行 船橋市農業委員会  
編集 農委だより編集委員会

〒273-8501 船橋市湊町2丁目10番25号  
TEL 047 (436) 2742  
URL <https://www.city.funabashi.lg.jp> (船橋市役所)  
e-mail [nogyo@city.funabashi.lg.jp](mailto:nogyo@city.funabashi.lg.jp)

令和6年8月31日に開催された「千葉なし味自慢コンテスト」において最高賞の“農林水産大臣賞”を受賞した植草 学さん。千葉県果樹園芸組合連合会に属する組合から124点の出品があった中で、「船橋のなし」は特別賞7点、奨励賞2点の合計9点を受賞。船橋ブランドである「船橋のなし」が、味・品質ともに評価される結果となりました。

高齢化により栽培面積が減り、後継者不足も発生。産地維持が困難になっている現状がある中で、農地の貸借を推進するため、船橋市果樹園芸組合に「農地貸借推進部」を設立するなど、困難な現状を克服していく情熱は誰にもマネは出来ません。

詳しくは3ページ「がんばる！農家訪問」をご覧ください。



## 年頭のごあいさつ

船橋市農業委員会

会 長  
岡庭 一美



新年あけましておめでとうございます。

日頃より農業委員会活動にご理解、ご協力いただき、感謝を申し上げます。

さて、地球温暖化による異常気象は農産物等に多大な影響を及ぼし、世界情勢の変化に伴う資材等の高騰など、農業者の皆さまにおかれましては依然として厳しい状況が続いております。

このような中、農業経営基盤強化促進法の改正に伴い、地域の農業のあり方や農地利用の将来のあり方を明確にする「地域計画」の策定が求められております。策定にあたっては、農地の意向調査等、皆様のご協力が必要不可欠となっており、地域の農地を次世代に引き継ぐためには「地域の話し合い」が重要となります。

農業委員会といたしましては、農業委員と農地利用最適化推進委員が連携し、行政機関や農業関係団体と協力しながら様々な課題に真摯に取り組み、重点業務である農地利用等の最適化を推進するとともに、農地を地域の貴重な資源として守り継ぎ、農業者の皆さまの期待に応えられるよう、委員一人ひとりが全力を尽くして参ります。

今後ともご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

令和7年が農業者の皆さまにとりまして希望に満ちた年になりますことをご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

## 謹んで新年のご挨拶を申し上げます

農業委員・農地利用最適化推進委員一同

農業委員  
(議席順)

石山 幸男 (馬込町)  
齋藤 教子 (坪井町)  
金子しのぶ (前貝塚町)  
豊田 豊 (二和東)  
長嶋 雄一 (葉台)  
小川 晃 (東船橋)  
平野 恵昭 (西船)  
神山 茂樹 (豊富町)  
高橋 光一 (旭町)  
藤家 雅子 (東京都杉並区)  
藤平 尚志 (大神保町)  
宍倉由紀雄 (前原東)  
藤城 孝義 (高根町)  
岡庭 一美 (三咲)

農地利用最適化推進委員  
(地区順)

武藤 英夫 (小室町)  
木村 幸男 (神保町)  
中村 恵一 (大神保町)  
岩佐 常信 (坪井町)  
伊藤 貞 (車方町)  
齋藤 英幸 (坪井町)  
伊豆丸智也 (大穴南)  
伊藤 賢司 (二和東)  
齊藤 義夫 (金杉)  
伊藤 栄一 (前貝塚町)  
小川 和也 (印内)  
海老原寿生 (中野木)  
白井 廣司 (神保町)



## おいしい梨づくりを追求 「観察力」が味につながる

農林水産大臣賞を受賞した

うえくさ まなぶ

# 植草 学さん (藤原三丁目)



梨づくりを通して地域の魅力を伝え、子どもたちに夢を与えています。

JR船橋法典駅から徒歩約15分の木下街道沿いに居宅と梨の直売所を設けている植草さんは農家として8代目。両親と奥さん、3人のお子さんたちの家族で、梨づくりを中心にさまざまに取り組んでいる気鋭のエコファーマーです。

有機肥料を用いて幸水、豊水、あきづき、かおり、新高、秋麗など多種の梨生産に取り組んでいます。品質にこだわる“おいしい梨づくり”には定評があり、昨年(令和6年)8月に開催された「千葉なし味自慢コンテスト」では最高賞にあたる農林水産大臣賞を受賞し、ブランドとなっている「船橋のなし」の評価を更に高める役割を果たしました。

植草さんが農業に従事したのは31歳の時。以後、営農活動に積極的に取り組み、梨のほか贈答用のキウイも販売。大ぶりで品質の良さから好評を得ています。

梨づくりは自宅に連なる畑と市川市柏井に所有する畑などで行っていますが、このほかにも南房総市に農地を取得(賃貸)し、アボカドやレモン、またマカダミアナッツ、ピーカンナッツなどの生産にもトライしており、多様な展開を図っています。

植草さんは大学を卒業後、企業に就職した後、29歳で退職し、大自然が広がるオーストラリアにワーキング・ホリデービザで約2年間滞在していました。オーストラリアはワーキング・ホリデー制度導入の草分けで、この地で自然の神秘や自然の持つさまざまな魅力を感じたそうです。こうした自然への畏敬の念がすぐれた品質の梨づくりにも活かされているようです。また農業を継ぐにあたっては農業経営体育成セミナー(東葛飾農業事務所主催)で基礎づくりや仲間づくりをし、その後は船橋市果樹園芸組合研究部や千葉県果樹園芸組合連合会なし研究部で技術を研鑽を重ねました。

梨栽培を続ける上で大事なことは「観察力」とのことでした。天候、温度、土壌、虫など、自然の摂理に従った農作物には、さまざまな要因が関わっており、これらに適切かつ即座に対応するには、1つの事象からチェックできる「眼」が重要だということのようです。これもオーストラリアの自然との出会いの中で学んだこと、さらに、これらをAI等で自動管理する合理的なシステムの導入にも大きな関心を持っています。梨を中心とした農産物の生産・販売の一方で、後継者不足や高齢化による栽培面積の減少にも危機感を持っており、果樹農地の貸借を通じたブランド梨の維持にも取り組んでいます。船橋市果樹園芸組合の仲間と共に「農地貸借推進部」を設けて園地の減少阻止にさまざまな形で寄与しています。内外に高く評価されている船橋のブランド梨は一定の規模と良質な梨づくりにかかっており、現状の梨園の減少阻止にいくらかでも貢献したいという思いから積極的に取り組んでいるようです。



大学は物理学科卒という異色の経歴を持ち、果樹栽培の視点もその経歴を活かしたポイントがいくつもありました。

梨園の集約化による維持・拡大については「さらなる補助金の交付等が得られれば、より充実していくのではないかと話していました。

6次産業化についても取り組んでおり、梨ジャムやキウイジャムといった加工品の生産・販売も行っています。

船橋の法典地区は都市化の波が押し寄せている地域。都市近郊型農業の課題である近隣への作業音や薬剤散布問題にも苦勞しており、作業時間の調整等も行っています。

大臣賞の受賞については「両親と妻のおかげ」と語り、これからも良質な梨づくりを追求しながら、さまざまなチャレンジをしていく、「船橋の若手農業者のリーダーの1人」として今後の活躍が期待されます。



農業経営は家族の協力が第一です。

## 第57回船橋市農水産祭「都市農業PR」

### 見て、触れて、味わって… 「船橋産農産物即売会」は大盛況！



どんどん押し寄せる人波に売る側も嬉しい悲鳴をあげるほどでした。

昨年11月9日、第57回船橋市農水産祭「都市農業PR」が東武鉄道船橋駅コンコースにて開催されました。

岡庭農業委員会会長、農水産祭実行委員会委員長である 松戸市長、そして、東武百貨店船橋店長のあいさつの後、東武鉄道東武船橋駅長による「出発進行！」の笛の合図により、10時30分に即売会がスタート！

農業委員・農地利用最適化推進委員、市内農業生産者が出品した約3,500点の地元野菜等が販売されました。

夏の猛暑の影響により野菜の価格が高騰したため、小売価格よりも安価に設定された農産物が飛ぶように売れていきました。毎年好評いただいているシクラメンは今年も大人気、販売開始前から行列が出来るほどでした。

その他にも、船橋市観光協会では、ふなばしカレー等の販売、東武鉄道とJR東日本の合同開催による制服着用体験やフォトスポット、また、船橋警察署では防犯対策等に関するブースを設置し、市民に呼びかけをおこなっていました。

農産物即売会は、大盛況のまま13時頃には完売！

会場を訪れていた市民からは「新鮮な野菜は甘くておいしいですね」とか、「夕方までやってほしい」「このようなイベントをもっと頻繁にやって欲しい」などの声もありました。

次から次へと押し寄せる人波に、売る側も大変でしたが、生産者自らが地元農産物のおいしさや魅力をPRし、市民と直接会話をしながら販売できることがとても印象的でした。

今後は更に品数を増やし、より多くの市民に新鮮で安心な野菜をPRできるよう努力していきたいと思っています。

会場を提供して下さった東武鉄道・東武百貨店の皆様、早朝よりご尽力いただいた関係者や生産者の皆様、そして、船橋の地元農産物をたくさん購入していただきました全ての皆様に感謝を申し上げます。

### 第57回船橋市農水産祭「都市農業PR」アンケート集計結果

#### 問1 野菜・くだものを購入するとき、最も重要だと思う点は何ですか？

- |                       |     |
|-----------------------|-----|
| 1. 味・鮮度               | 81名 |
| 2. 価格                 | 45名 |
| 3. 安全性                | 39名 |
| 4. 産地                 | 21名 |
| 5. 見た目                | 8名  |
| 6. 環境に配慮した生産方法（有機栽培等） | 3名  |
| 7. その他                | 0名  |

#### 問2 野菜を購入する頻度はどのくらいですか？

- |            |     |
|------------|-----|
| 1. 週1回程度   | 17名 |
| 2. 週2～3回程度 | 57名 |
| 3. 週4～5回程度 | 22名 |
| 4. 週6回以上   | 4名  |

#### 問3 野菜の主な購入先はどこですか？

- |                                   |     |
|-----------------------------------|-----|
| 1. 農産物直売所<br>※スーパーの産直コーナーや無人販売を含む | 34名 |
| 2. 八百屋、スーパーマーケット<br>※産直コーナーを除く    | 81名 |
| 3. コンビニ                           | 3名  |
| 4. 宅配（オンライン通販など）                  | 4名  |
| 5. その他                            | 0名  |

#### 問4 船橋市内の農産物直売所を利用する頻度はどのくらいですか？

- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 1. よく利用する（週に2回以上）  | 26名 |
| 2. 時々利用する（週に1回）    | 20名 |
| 3. たまに利用する（月に1～2回） | 29名 |
| 4. ほとんど利用しない       | 16名 |
| 5. 近くに農産物直売所がない    | 9名  |

#### 問5 本日の即売会で、「船橋産の農産物」を購入してみて、どんなことを感じましたか？

- |                                      |     |
|--------------------------------------|-----|
| 1. 採れたてで新鮮な野菜だということがわかった             | 75名 |
| 2. 普段見慣れない野菜が売られていた                  | 13名 |
| 3. 生産者と直接話ができて良かった                   | 18名 |
| 4. 船橋は市街地が多いので、こんなに農産物が作られていると思わなかった | 12名 |
| 5. その他                               | 1名  |

#### 問6 あなたは、地産地消（市内での地元農産物の消費）についてどうお考えですか？

- |                                       |     |
|---------------------------------------|-----|
| 1. 地域の活性化につながると思う                     | 53名 |
| 2. 船橋産ならば、生産者が身近に感じられ、鮮度が良く、安全・安心だと思う | 48名 |
| 3. 旬の農産物や地域の食文化に対する理解が深まると思う          | 18名 |
| 4. 生産者との交流が図れると思う                     | 8名  |
| 5. 食料の自給率向上につながると思う                   | 21名 |
| 6. 船橋産の農産物が食べられる飲食店をもっと増やしてほしい        | 15名 |
| 7. その他                                | 0名  |

#### 問7 船橋の農業をPRするには、こういった取り組みが効果的だと思いますか？

- |                       |     |
|-----------------------|-----|
| 1. 農産物の試食・販売          | 62名 |
| 2. 農作業の体験             | 15名 |
| 3. 農産物を使った料理教室        | 16名 |
| 4. 農家と地域住民の懇談会        | 10名 |
| 5. 船橋産の農産物を販売するお店を増やす | 36名 |
| 6. その他                | 1名  |

（回答数 100名：複数回答あり）

## 杉並区農福連携農園「すぎのこ農園」・ JA東京あおば「とれたて村 石神井」視察報告 ～農業委員、農地利用最適化推進委員、農業モニター合同視察に参加して～

昨年10月21日、農業委員、農地利用最適化推進委員、農業モニターの合同視察で東京都杉並区「農福連携農園 すぎのこ農園」及びJA東京あおばの農産物直売所「とれたて村 石神井」を訪れました。

同農園は、東京23区で初めての農福連携農園であり、平成31年3月に杉並区が区民農園だった農地を地主さんの相続の際に購入し、同年4月から試験運営を開始（運営はJA東京中央が杉並区から管理委託）、6月より農福連携事業基本計画に沿って、順次、収穫物を施設へ提供、団体農園區画の貸出、公募した区民ボランティアの活動が開始。令和3年4月に管理事務所の完成で全面開園となりました。

管理事務所は区内最古と言われる江戸時代中期の農家住宅の部材を活用し、畑とともにかつての「杉並の農の風景」を創出しています。また、利用者の利便性やバリアフリーに配慮し、休憩所・講座やイベントに活用できるスペースを備えているほか、昔の農具の展示もあり、博物館の要素もありました。

すぎのこ農園では、約2000㎡の多目的農園區画と、約600㎡の団体農園區画があり、区民向けの収穫体験スペースを設けるほか、障がい者団体や保育園等に区画を貸し出し、利用者のいきがいの創出や健康増進、自然体験につなげています。

農作業においては、JA東京中央の職員3名が障がい者への指導などをするとともに、区民ボランティアとともに、障がいのある人でも作業がしやすいように道具の改良や工夫などもされているとのことでした。

収穫した野菜は、すべて障がい者施設や子供食堂に提供し、野菜即売会「すぎのこマルシェ」（毎月第2土曜日）やすぎのこ農園まつり（年1回）の開催で、地域との交流や障害者施設利用者が社会参画する機会を創出していました。

杉並区では、農産物の生産・提供を通じて、障害者や高齢者等のいきがいの創出や健康増進、若者の就労支援などの福祉施策の効果を高めるとともに、農地を活用した農業と福祉の連携事業が行われており、船橋市においても同様な動きを通じて、行政と民間が連携して遊休農地の解消や農地の維持につながると感じました。

続いての視察地である、JA東京あおばの「とれたて村 石神井」は、管内に6つあるJA直営直売所の1つで、特産の練馬大根やキャベツをはじめ、練馬区内で収穫された野菜や加工品が販売されていました。店内は「ふなっこ畑」のような雰囲気、規模は小さいながらも、販売する野菜は、基本的には近隣農家さんの出荷物がメインですが、集荷が少ない時期は、熊本、静岡、長野、山形や沖縄などの提携しているJAから集荷することもあるということでした。また、物流量の増大による、他のアグリセンター直売所への効率的な分配が課題であるとのことでした。

価格に関しては、出荷計画を作成し、農家とのコミュニケーションを計るなどして、生産者同士の価格競争で値くずれしないよう、そして、近隣スーパーの価格調査をして、参考価格として農家に提案しています。また、安心安全な野菜の販売において、生産履歴の徹底をした、履歴書類の提出がないと、販売できないというルールを決めています。

食品ロスや環境への配慮としては、売れ残った野菜を、子供食堂等に提供しています。駐車場スペースでは、即売会や感謝祭などのイベント等も行われ、農家や野菜の出品をお願いした場合は、販売手数料を下げることもあるそうです。

今回視察させていただいた所では、これからの農業のあり方や、農家への接し方を考えさせられる内容でした。船橋市でも農地の減少や後継者不足という課題は待ったなしの状態です。10年20年先に、今と同じ風景を守っていききたいですね。



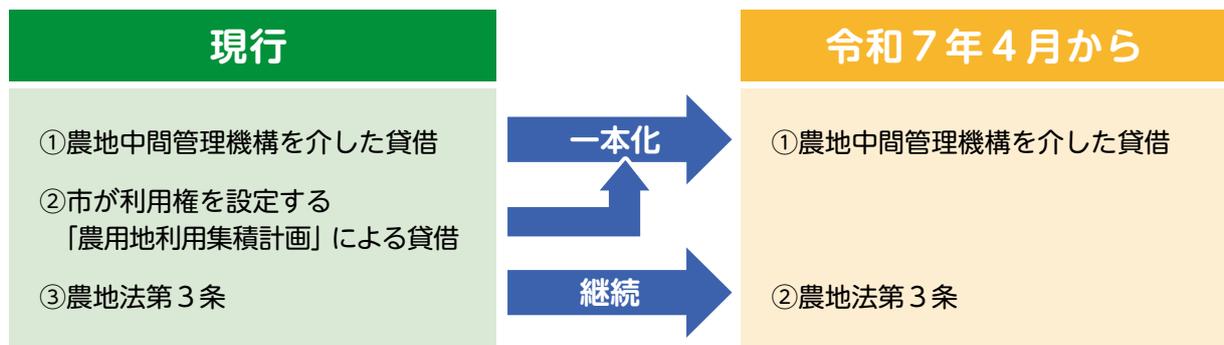
江戸時代中期の農家住宅前の農園區画にて



JA東京あおばの会議室では、様々な取り組みについての説明をしていただきました。

## 農地の貸借の方法が令和7年4月から変わります。

農業経営基盤強化促進法等の一部を改正する法律（令和5年4月1日施行）により、農地貸借の方法が①農地中間管理機構を介した貸借と②農地法による農地貸借に限定されます。  
※生産緑地については引き続き、都市農地貸借円滑化法による貸借が可能です。



◇現行の「農用地利用集積計画」による利用権は、設定した期間満了日まで有効となります。  
◇現行の市が利用権を設定する「農用地利用集積計画」による貸借は、**2025年(令和7年)2月20日**が最終受付期日となります。ご希望の方は、期日までに必要書類を揃え農水産課までご提出お願いいたします。

### 〈問い合わせ先〉

船橋市経済部農水産課 TEL 047-436-2493  
船橋市農業委員会事務局 TEL 047-436-2742

## 2025年農林業センサスにご協力をお願いします。

農林水産省では、令和7年2月1日現在で、全国一斉に「2025年農林業センサス」を実施します。この調査は、5年ごとに、我が国の農林業・農山村地域の実態を明らかにする最も基本的な調査で、重要な統計資料を作成することを目的としています。

令和7年1月中旬から調査員が農林業関係者の方を訪問して、調査票に農林業の経営状況などの記入をお願いします。

調査票に記入された事項については、統計以外の目的には使用されませんので、ご協力をお願いします。

詳細は、以下の農林水産省ホームページを確認ください。

<https://www.maff.go.jp/j/tokei/census/afc/>



## 女性農業委員の活躍

国の計画では「女性農業委員の割合が全体の3割になるよう目指しましょう」とあります。令和5年7月の農業委員改選時から、農業委員の女性登用促進に向けた取り組みの中で、船橋市でも女性農業委員を3割に増やそうという動きになりました。

女性が登用されるには、家族の理解と協力が必要となりますが、なかなか得難い現状があります。農業者への声掛けや相談を通じて、候補者となる女性や家族との信頼関係の構築に努めていかななくてはなりません。

女性農業委員の母ともいえる齋藤委員をはじめ、今期からは藤家委員、そして私を含めた3人の女性農業委員はまさに「かしまし娘」。私たちに何が出来るかを今一度考え、女性ならではの視点を活かした活動が出来るよう頑張ります。

私たちに続く女性農業委員を期待するとともに、今は毛利元就の「三矢の訓」のごとく、一致団結して、船橋市農業委員会が地域の再生と農業の持続的な発展につながりますよう「勤儉力行」して参ります。



後列：左から藤家委員・金子委員  
前列：齋藤委員

(編集委員：金子しのぶ)

## 農業者年金で安心・豊かな老後を

～農業者なら、広く加入可能です～

国民年金の  
第1号被保険者  
(保険料納付免除者を除く)

年間60日以上農業に従事する  
20歳以上60歳未満の方は  
誰でも加入できます

年間60日以上農業に従事する  
60歳以上65歳未満の国民年金の  
任意加入者も加入できます

### 農業者年金 6つのポイント

ポイント1 農業者なら広く加入できます

ポイント4 終身年金で、80歳前に亡くなった場合は死亡一時金が遺族へ支給されます

ポイント2 積立方式・確定拠出型で少子高齢時代に強い年金です

ポイント5 税制面で大きな優遇措置があります

ポイント3 保険料額は千円単位で自由(月額2万円～6万7千円)に決められます  
※35歳未満で政策支援加入の対象とならない方は1万円～。

ポイント6 一定の要件を満たす農業者には、保険料の国庫補助(政策支援加入)があります

#### 農業者年金の支給額(年額)の試算

加入年齢	納付期間	性別	保険料の国庫補助のない加入の場合		保険料の国庫補助を受ける加入の場合			
			保険料本人負担分総額	農業者老齢年金支給額(年間)	保険料本人負担分総額	支給総額(年間)	農業者老齢年金支給額	特例付加年金支給額
20歳	40年	男性	960万円	80万円	744万円	81万円	58万円	23万円
		女性		69万円		69万円	50万円	20万円
30歳	30年	男性	720万円	53万円	588万円	53万円	41万円	12万円
		女性		46万円		46万円	36万円	10万円
35歳	25年	男性	600万円	42万円	528万円	42万円	36万円	6万円
		女性		36万円		36万円	31万円	5万円

(注) この試算は、保険料月額2万円で加入し、65歳までの運用利回りが2.5%、65歳以降の予定利率が1.00%となった場合の試算です。予定利率は毎年度、農林水産省告示により定められ、令和6年度は、1.00%です。(各金額は単位未満を四捨五入により表示しているため、内訳数字との合計が一致していません。)

詳しくは…

独立行政法人 農業者年金基金 <https://www.nounen.go.jp>

農業者年金の内容やご相談については、最寄りの農業委員会かJAまたは農業者年金基金にお問い合わせください。

専門相談員

企画調整室

TEL:03-3502-3199 TEL:03-3502-3942



# 全国に誇る「千葉の園芸」全国順位

(10位までの主な品目)

令和4年産統計版

公益社団法人 千葉県園芸協会

1位

**日本なし**  
65億円  
10%  
②茨城  
③栃木



**えだまめ(未成熟)**  
47億円  
12%  
②群馬  
③山形



**さやいんげん(未成熟)**  
45億円  
18%  
③福島  
③北海道



**かぶ**  
27億円  
26%  
②埼玉  
③青森



2位

**マッシュルーム**  
25億円  
38%  
②山形  
③茨城



**しゅんぎく**  
15億円  
11%  
②大阪  
③福岡



**みつば**  
13億円  
18%  
②茨城  
③愛知



**かぶ**  
27億円  
26%  
②埼玉  
③青森



**さつまいも**  
194億円  
18%  
①茨城  
③鹿児島



**にんじん**  
105億円  
19%  
①北海道  
③徳島



**だいこん**  
101億円  
12%  
①北海道  
③青森



**すいか**  
75億円  
12%  
①熊本  
③山形



**とうもろこし**  
34億円  
10%  
①北海道  
③茨城



**さといも**  
32億円  
10%  
①埼玉  
③宮崎



**そらまめ(未成熟)**  
9億円  
17%  
①鹿児島  
③茨城



**ししとう**  
8億円  
14%  
①高知  
③愛知



3位

**ねぎ**  
128億円  
10%  
①茨城  
②埼玉



**キャベツ**  
73億円  
8%  
①愛知  
②群馬



**しょうが**  
24億円  
12%  
①高知  
③熊本



がんばろう! 千葉



凡例

品目	日本なし
産出額(億円)	65億円
全国に占める割合(%)	10%
他県の上位県名	②茨城
①~③県名	③栃木

(注)データは令和4年農業産出額に基づく。(R6年3月作成)

船橋産 簡単レシピ



## 小松菜肉まん

小川 佳子さん(印内)考案

第57回船橋市  
農水産祭農産品評会  
船橋市長賞(生活)受賞

材料(5個~8個分)

【皮(生地)】

- 薄力粉 ..... 200g
- ベーキングパウダー ..... 5g
- 砂糖 ..... 30g
- 塩 ..... 少々
- ドライイースト ..... 5g
- サラダ油 ..... 大さじ 1/2
- 小松菜(茹でたもの) ..... 50g
- 水 ..... 50cc
- 打ち粉用の薄力粉 ..... 適量

【具材】

- 豚肉(お好みの形状で) ..... 150g
- 玉ねぎ(みじん切り) ..... 1/2 個
- しいたけ(みじん切り) ..... 10g
- 小松菜(2cmぐらい) ..... 30g
- 中華だし ..... 8g
- テンメンジャン ..... 大さじ 1
- コチュジャン(お好みで) ..... 少々
- ごま油 ..... 5g
- 砂糖 ..... 5g
- しょうゆ ..... 7g
- 片栗粉 ..... 5g
- クッキングシート(10cm×10cm) : 個数分

皮(生地)の作り方

- ①ミキサーで混ぜたBを電子レンジで人肌に温める。
- ②ボウルにAを入れ、こねる。
- ③ドライイーストは1か所にまとめて入れ、イーストめがけて①を少しづつ入れる。
- ④綺麗にまとまったら、サラダ油を加え、さらにこねる。
- ⑤ボウルに生地をひとまとめにしてラップをして、2倍の大きさになるまで常温で15分ほど置く。(電子レンジの発酵を使用しても良い)

具材の作り方

- ⑥材料を良く混ぜながら炒め、水とき片栗粉でまとめる。

成形・完成

- ⑦Aの生地と⑤の具材を5~8等分にして生地を丸める。
- ⑧まな板等に打ち粉を振り、めん棒などで生地を直径8cmぐらいの円形に伸ばす。(この時、円の中心部分は厚めにし、周りを伸ばす。)
- ⑨⑦の中央部分に具材を入れ、生地を閉じる。(この時、具の油が生地に付くと、閉じるとき、くっつかなくなるので気をつける。)
- ⑩1つずつクッキングシートの上のにせ、ラップをかけてしばらく常温に置いておく。
- ⑪蒸し器で20分ほど蒸したら出来上がり。

編集後記

今年、米、野菜の価格が高い・・・とマスコミ等で報道されています。資材や物流コストの高騰など、農業を取り巻く環境は一層厳しくなり、離農する農家も増え始め、最近私の周囲も耕作放棄地が目立ってきました。何世代にも渡り、農業を続けてこられた農家は立派だと思います。コツコツとまじめに取り組んできた農家の皆さんは「農業」という職業に自信と誇りを持って、これからも一緒に頑張っていきましょう。